

令和 7 年度

# 学 校 評 価

<記入上の留意点>

- 評価Ⅰは教職員、評価Ⅱは校園長、評価Ⅲ・評価Ⅳは学校関係者評価委員の評価を記入する。
- 評価Ⅰは小数第一位まで記入する。評価Ⅱは4段階を基本とするが、0.5刻みまでを許容とする。評価ⅣはABCDで記入する。
- 学校の実態に応じて評価内容を追加して設定することができる。

◎ 評価Ⅰ、評価Ⅱの基準

4	十分達成できた
3	達成できた
2	取り組んでいるが、成果は十分でない
1	取組が不十分である

◎ 評価Ⅲの基準

4	よく取り組んでおり、成果が大きい
3	熱心に取り組んでおり、今後の期待できる
2	取り組んでいるが、成果は十分でない
1	取組が不十分である

◎ 評価Ⅳの基準

A	優れている
B	適切である
C	おおむね適切である
D	要改善

# 令和7年度 学校評価

## 【教育の基本方針】(第2次尼崎市教育振興基本計画)

- 1 個の尊厳や人権の尊重
- 2 未来志向の教育
- 3 家庭・地域社会との連携

[各校の重点取組について]

常に生徒の安心・安全を第一に考えた学校づくり

開かれた学校づくり

伝統を大切にするとともに、新しい市尼を想像する学校づくり

### 学校評価の観点

1 学ぶ力と健やかな体の育成		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得及び、思考力、判断力、表現力を育むとともに、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実による確かな学力を育成する。 (2) 多様な視点や価値観で物事を見つめる実体験を大切に、課題解決能力を高める学習を充実を図る。 (3) 運動に親しむ習慣づくりを促進し、運動能力向上に努めるとともに、様々な健康課題を踏まえた健康教育を推進する。 (4) 給食の活用等による発達段階に応じた食育を推進するとともに、家庭や地域への理解啓発を図る。		3.0	2.9
取組	成果	課題と改善策	
・3年間を通しての継続的な集団行動への取組(体育科)  ・基礎学力をつけるための学習習慣をつけるため、課題・小テストを定期的・計画的に課す。(1年)  ・英検・模試等外部試験を意識した、発展的内容の教科指導もすすめる。(1年)  ・進路講演会、校外模試を適宜実施し、進路実現に向け学習に対して自主的に学び考え懸命に取り組むように促す。(2年)  ・学校生活において朝の学習を充実させ、予習・授業・復習というサイクルの習慣を身につけさせ学校生活を充実するよう、平常授業を大切に取り組むこととクラブ活動との両立に向け積極的に取り組むよう促す。(2年)  ・生徒の進路希望達成に向けて補習や面接指導、そして的確なアドバイスができるようよりいっそう進路指導部と連携しながら指導体制を充実させる。(3年)	・周囲の仲間を気遣ったり、協力して活動することが出来た。  ・生徒一人一人の将来を見すえた進路希望を達成できる指導体制を学年団と進路指導部が中心となり取り組むことができた。また、今年度はいろいろな先生方のご厚意でサポートもいただいた。  ・小テストは、年間計画を告知して実施をできた。各学期末の中規模テストは、告知期間を十分に取、優秀者には表彰をするなど、生徒の動機付けを向上させる取り組みを実施した。  ・進路講演会、校外模試により、進路実現に向け学習に対して自主的に行動しようとする生徒が増え始めた。  ・多くの生徒は、朝学習や平常授業を大切に取り組むクラブ活動との両立に向け積極的に取り組んでいたが、予習・授業・復習の学習サイクルについては十分に継続できなかった。そのため授業理解や学習効率の向上には課題が残った。  ・生徒一人一人の将来を見すえた進路希望を達成できる指導体制を学年団と進路指導部が中心となり取り組むことができた。また、今年度はいろいろな先生方のご厚意でサポートもいただいた。	・教員が指導して行う部分がまだ多く見られるため、生徒達が自身の発想で様々な活動に取り組めるような場面をつくっていく必要がある。また、集団行動の日常生活への応用をもっと出来るような指導が必要と思われる。  ・今の現状を継続できるように、努めたい。  ・英検は準1級取得に向けた指導に取り組んでいきたい。  ・一部の生徒は、予習・授業・復習の学習サイクルが十分に継続できておらず、そのため授業理解や学習効率の向上には課題が残った。来年度は、自習室の開設に加え、補習授業科目を設定し、大学受験等に向けた取り組みを実施する。  ・自己実現に向けて、自主的・主体的に行動する生徒は増えてきたが、まだ動き出せていない生徒もいる。来年度は、進路講演会、校外模試の実施に加え、早朝や放課後に補習を実施し、大学受験等への意識向上に努める。  ・教科によっては人手不足があり進路指導に向けてマイナス効果が多々あった。生徒の頑張る姿勢をさらにサポートする学校全体としての対策が必要である。	

2 多様性と包摂性のある教育の推進		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 支援を必要とする子ども一人ひとりへの多様な教育ニーズに対応するとともに、学校外のグラデーションある学びの場や他機関等との連携を推進する。 (2) インクルーシブ教育の推進と合理的配慮の提供に向けた体制の整備による切れ目のない支援の充実を図る。 (3) 共生社会の実現に向け、違いを認め合い、多様な文化的背景をもつ人々と豊かに共生する心、共に生きようとする意欲や態度を育む。		3.2	3.5
取組	成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・全教職員が生徒の変化を敏感に察知でき、組織的に対応できるよう教職員対象のカウンセリング研修会を実施する。また、カウンセリング委員会を定期的に開催し、気になる生徒の早期発見に務めるとともに、必要に応じてSCやSSWにつなげるとともに、ケース会議を積極的に実施する。生徒の特性をふまえた指導方法の工夫や合理的配慮について検討していく。(保健部)</li> <li>・海外修学旅行において異文化に触れ、国際社会に目を向け関心を深めさせ、行事实行委員が中心になり、現地の文化や歴史的な内容等について学習を促す。(2年)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員は、SCIによる研修を受けることで、発達特性のある生徒や希死念慮を抱える生徒への対応力を高めることができた。また、月1回のカウンセリング委員会にはSSWにも参加してもらい、初期段階から助言を受けることで早期対応につなげることができた。さらに、必要に応じてケース会議を開催し、対応方針について教職員間で共通理解を図ることができた。</li> <li>・海外修学旅行において異文化に触れ、国際社会に目を向け関心を深め、行事实行委員が中心になり、現地の文化や歴史的な内容等について学習していた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員向けのカウンセリング研修会の参加率は、昨年より少し上がったものの、全体の6割にとどまった。より多くの教職員が参加できるように、開催時期について検討する必要がある。</li> <li>・費用や安全、トラブル対応や事前準備に課題が残った。また、教育的意義の明確化も求められる。来年度は、これまで以上に事前準備を念に行い、安全・安心な校外行事の実施に努める。</li> </ul>	

3 豊かな心の育成といじめ防止の取組		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 人権に関する知的理解と人権感覚の涵養を基盤に、自他の人権を守り、人権課題を解決しようとする実践的行動力を育成する。 (2) 命を大切にしたい心や思いやりの心、規範意識等の醸成に向け「道徳教育」や「心の教育」やその充実を図るとともに、様々な体験活動を通して豊かな人間性と社会性を培う。 (3) 一人ひとりの違いを認め合う仲間づくりを推進し、道徳科や特別活動、体験学習等を通じていじめの未然防止に努めるとともに、早期発見、早期対応に取り組む。 (4) 尼崎市の歴史や伝統・文化への理解を深めるとともに地域への愛着等、児童生徒の感性を高め、豊かな情操を養う。		3.1	3.1
取組	成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書委員を中心に読書感想文の募集、コンクール参加への呼びかけをする。(図書部)</li> <li>・いじめ組織対応の推進→早期発見・早期対応いじりを見逃さない(生徒指導部)</li> <li>・あいさつの励行に努めさせる。(1年)</li> <li>・面談や日々の声掛けを通じ、担任団と生徒のコミュニケーションを円滑にする。(1年)</li> <li>・クラブ活動を引退するまでは精一杯活動に取り組む。引退後は最後まであきらめずにしっかりと進路希望達成に向けて取り組めるように指導をする。(3年)</li> <li>・社会人としてのマナーや協調性等、ホームルーム活動を通してその重要性を実感させる。(3年)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2名の応募があり、そのうち1名が「佳作」を受賞した。</li> <li>・各学年と情報共有をていねいに行い、組織で対応した。</li> <li>・概ねの生徒は挨拶が習慣になっている。</li> <li>・担任団は小さな悩み事を聞くことから、不登校生徒、いじめ関連に至るまで、生徒や保護者と適宜面談をして、対応に努めた。</li> <li>・本校の目標である「文武両道」へ向けて、最後まであきらめずにクラブ活動や学習の両方で最後まで諦めずに取り組むことができた。進路実績も現時点では順調に成果を出している。</li> <li>・社会の一員として通用する基本的な生活習慣を身につけることができた。また、他者への思いやりが持てるようなクラス経営も達成できたかと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンクールに対する認知度がまだ高いとはいえない。図書館だより以外のコンクール参加の呼びかけを検討する。</li> <li>・認知することだけが目的にならないように、まずは組織として情報共有し、認知した後の対応をていねいにする必要がある。</li> <li>・落ち着いた学習環境の整備という点で、次の段階は教室掲示や清掃方法などの平準化を図ってきたい。</li> <li>・これに関しては今の現状を継続できるように、努めたい。</li> <li>・学習面への取り組みを強化する必要がある。特に大学推薦入試での体育科生徒の学力保証をどのようにするのか学校として方向性を検討していく時期かと思われる。</li> <li>・SNS等への対応をさらに深める必要がある。人間関係もそうだが個人的価値観の違いから様々な問題が生じていることを生徒に認識させる必要がある。</li> </ul>	

4 教育環境の整備と教員の育成・勤務環境の整備		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) ICTを活用した更なる多様な学びを実現を目指して、ICTを活用した学習のデジタル化を積極的かつ効果的に推進し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。 (2) 個別最適な学びと協働的な学びを一体的に推進するとともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導力の向上を図る。 (3) 社会的な良識と人権感覚、高いコンプライアンス意識を持ち、子どもや保護者、地域社会から信頼される教員の育成を図る。 (4) 教員の働き方改革を推進するとともに、風通しの良い職場環境づくりを進め、働きがいのある学校園づくりを進める。		3.3	3.2
取組	成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTを利用した学習支援の確立、採点や成績処理など教務的作業のICT化(教務部)</li> <li>・生徒指導部内で業務を分担し均等化する。組織として動き、学年との分担を目指す。(生徒指導部)</li> <li>・持続可能な組織運営を目指し、資料と蓄積データの整理を進め、進路業務のスリム化・効率化をはかっていく。(進路指導部)</li> <li>・進路指導部が主催するオリエンテーション、ガイダンスをより効果的なものにするために、情報収集を行いながら部内で再検討を進め、必要に応じて適宜変更を加えていく。(進路指導部)</li> <li>・書籍だけでなくDVDなど映像機器についても新しいものにするなど生徒が活用しやすいものとする。(図書部)</li> <li>・予鈴にて入室することを徹底し、落ち着いた学習環境の整備をする。(1年)</li> <li>・「市年生の手引き」の見直し、書式等の統一することにより見やすく、理解しやすくする。(総務部)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校では、教員の働き方改革と生徒一人ひとりに応じた学びの実現を目指し、ICTの活用を推進している。新入生にiPadを導入し、調べ学習や協働学習、復習の質の向上を図っている。端末はJamfにより安全に管理し、デジタル採点の導入で採点・成績処理を効率化することで、指導改善に注力できる体制を整えている。</li> <li>・業務を明文化し、年度初めに分担を明確にした。幼稚園読み聞かせボランティアは図書部に移管した。</li> <li>・データの種類や特性に応じて、進路指導部のデスクトップPC、GoogleDrive、校務PC、外付けハードディスクに明確に整理を行い、部内で定着させることができた。また、パスワードをかけるなどセキュリティを高めることができた。</li> <li>・従来の取り組みに加え、公募制で志望理由書のネット出願が必須に変更となったことに伴い、急遽それに対応したガイダンスを設定した。また教員向けのガイダンスも実施した。</li> <li>・休みや放課後における図書館の利用は一定数あり、継続的に活用されている。特に、新刊本や検定試験、入試関連の書籍の利用が目立った。また、日々の学習のために図書館を利用する生徒の姿も見られた。</li> <li>・各教員が早めに教室に上がることで、おおむね実現できている。</li> <li>・書式等の様式を統一することにより、見やすく理解しやすくなった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT活用には、教員間のスキル差や機器トラブルへの対応、個人情報管理など、継続的な研修と体制整備が課題である。また、ICTは学びを支援する手段であり、目的化しないよう授業設計の工夫と教育的意義の共有が重要である。今後は実践を振り返りつつ、学習支援と業務効率化を進め、より質の高い教育環境の実現を目指す。</li> <li>・年度をまたぐ際にだれが担当してもいいように引継ぎ資料を整理しておく必要がある。市高祭は学年と生徒指導部の役割分担に課題が残ったため、事前に共通理解した上で準備を進める。</li> <li>・蓄積された過去のデータと複雑なマクロで連携されているため、データ継続が困難である。受験結果集計、進路希望調査等を必要最小限に簡略化し、業務のスリム化を図るとともに、持続可能な作業内容に移行したい。</li> <li>・動画で情報収集が容易になった時代に、従来の学校別・学部別ガイダンスが本当に有効なのか、また理系で実施しているような大学や企業を訪問するタイプの学びに変更できないか、検討をしていきたい。</li> <li>・今後も生徒たちが気軽に図書館今後も、生徒たちが気軽に足を運び、主体的に活用できる図書館環境の整備に継続して取り組んでいく。</li> <li>・落ち着いた学習環境の整備という点で、次の段階は教室掲示や清掃方法などの平準化を図っていきたい。</li> <li>・各部署の書式等を統一するのに労力を要した。</li> </ul>	

		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
<b>5 家庭地域社会一体となった教育の充実</b> (1) コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一体的推進し、「地域とともにある学校づくり」の実現に向けて取り組む。 (2) 防災教育の取組を促進し、危機管理能力の向上を図る。 (3) 安全教育の取組を促進し、登下校及び学校園内の安全確保を図る。		<b>3.1</b>	<b>3.2</b>
取組	成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣の幼稚園児を招き、スポーツや運動の指導を生徒が企画し実践する(体育科)</li> <li>・体育科としての地域との交流や社会貢献。(地域の子供たちへのスポーツ指導や清掃活動の実施)(体育科)</li> <li>・地域とも連携して登下校における安全指導を行う(生徒指導部)</li> <li>・学校要覧、学校案内パンフレット、ポスター等内容が伝わるものに工夫して作成する。(総務部)</li> <li>・市内幼稚園との絵本を通じた交流(図書部)</li> <li>・防災・非常時だけでなく日常の指導においても全職員が生徒の安全を最優先とする意識をもって行動できるよう工夫する。(総務部)</li> <li>・1年生対象の救命講習(消防署が指導)を行うとともに、教職員対象の救命講習も実施する。(保健部)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年生のスポーツ総合演習の中に、近隣の園児への指導を取り入れ、幼稚園児に来校してもらい指導を行った。</li> <li>・水泳・体操・テニスなど、本校の施設を利用しての地域小中学校との交流を行えた。また、「そのだスマイルサマープログラム」で、陸上、サッカー、ラグビーの各部が教室を開催するなど、年々地域との交流は増えてきている。</li> <li>・生徒指導部で担当を分担したほか、地域の方にもご協力いただいた。自転車の登下校で事故の危険性があるとの情報提供に対しては、教室掲示をして注意喚起を図った。下校時に不審者が出た際には、警察と情報共有し、警察に迅速に対応していただいた。</li> <li>・学校要覧、学校案内、パンフレット、ポスター等の内容が伝わるものに工夫できた。</li> <li>・多くの参加希望があり、充実した3日間の活動を実施することができた。幼稚園児たちの無邪気な心に触れることで、園児の健やかな成長を願う本校生徒の意識も一層高まったと感じている。また、人のために役立つ職業に就きたいという思いが芽生えるなど、進路意識の向上にもつながった。さらに、幼稚園での体験が単に「楽しい」だけで終わるのではなく、より深い学びとなるよう日記形式のジャーナルを作成し、生徒一人ひとりにその日の気づきや学びを記録させた。</li> <li>・年2回の避難訓練を実施し、タブレット等を利用して生徒に避難経路等を明確に提示し、日常的に避難経路の確認ができるようにした。</li> <li>・尼崎市北消防署の方から直接、心肺蘇生法やAEDの使い方を教えてもらった結果、生徒の安全への意識が高まり、実際に役立つ応急手当の方法を身に付けることができた。また、これまで講習を受けたことのない教職員も、生徒と一緒に参加し、正しい知識と技術を学ぶことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園への出張指導なども話に出たが、生徒を園に派遣する場合、他の授業との時間調整や、移動手段など、様々な課題がある。また、雨天時は園児の来校が無くなるなど(徒歩で来校のため)、その場合の対策なども工夫が必要となる。</li> <li>・体育科全体として参加するには、時間的な制約や、各クラブでの試合の日程が違っているために難しい。各クラブ毎で積極的に地域に出向き交流を深める努力が必要である。</li> <li>・引き続き、地域の方や関係機関と連携を図りながら、登下校の安全を確保する。特に令和8年4月からは自転車の青切符制度が導入されることから、導入までに啓発する必要がある。</li> <li>・各部署から提出される資料がワードや一太郎など書式が統一するのに労力を要した。</li> <li>・生徒たちの希望も多いボランティア活動であるため、今後も継続していきたいと考えている。また、生徒一人ひとりの学びをさらに深めるため、ジャーナル形式による記録も引き続き実施していきたい。絵本の読み聞かせについては希望者を募り、次年度はできれば生徒自身が制作した絵本を園児に届けられるよう、計画的に準備を進めていきたい。</li> <li>・さらに全職員に対して周知徹底する。また、現在実施している地震からの火災を想定した総合避難に、津波も想定した内容を検討する。</li> <li>・次年度以降は、一部の教職員だけでなく、全教職員対象の救命講習を計画したい。</li> </ul>	

教育目標 次世代を担うリーダーを育成する学校 (1) 教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 教育目標の具現化と指導の充実		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		3.0	2.8
取組	成果	課題と改善策	
<p>・生徒の希望進路を叶えるために、進路指導部で継続的に行ってきた種々の指導について、部内で再検討を行い、より良い進路指導の構築を検討していく。(進路指導部)</p> <p>・新教育課程における成果の検証と見直し。(教務部)</p> <p>・生徒会活動の活性化。情報発信の充実(生徒指導部)</p> <p>・ゴミの分別について、わかりやすい案内を作成するなど、引き続き啓発に力を入れる。また、外部の教員や生徒にもゴミの分別を徹底してもらえるように、顧問会議や部長会議でも伝えていく。(保健部)</p> <p>・体育科として積極的な中学校への訪問、広報活動。クラブ間での意見交換会。(体育科)</p> <p>・大学(体育系大学も含め)への進路保証に関する働きかけ。(体育科)</p>	<p>・志望理由書、小論、面接の指導を学校全体で取り組めるように、指導の教員分担を試験的に変更した。例年以上に進路、学年外からも推薦入試の指導に関わってもらうことができた。</p> <p>・評価観点の整理や新たな評価方法の導入については、教員間で理解や実践に差が見られ、ルーブリック評価やパフォーマンス課題の作成・運用に負担感を抱く場面もある。特に、「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、客観性や記録方法に課題が残っている。また、「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業づくりについても、活動が形式的に終わり、学びの深まりにつながっていない場合がある。ICT活用についても、教科や授業によって取組状況に差が見られる。</p> <p>・生徒会主体の市高祭の企画・運営。生徒会新聞の発行(令和6年度第9号、令和7年度第3号)。一人ひとりが生徒会員であることの自覚を促すため、令和7年度に生徒総会を開催した。スマホマナー向上プロジェクトの実施</p> <p>・4月に顧問会議や部長会議でゴミの分別について呼びかけを行ったことで、昨年度よりも教職員の意識が高まった。その結果、これまで週明けにクラブ活動で出たゴミが分別されていないことがよくあったが、今年度はそのようなことが減り、状況が改善された。</p> <p>・一学期の期間中に、県内の中学校に各教員が体育科の説明に回った。また各クラブで中学生への指導を行うなど、広報に務めた。更に本年度は近隣の中学校に対して、12月の3者面談前の時期に再度訪問を行った。</p> <p>・本年度は関西大学堺キャンパスへ伺い、指定校についての話を行うことが出来た。各クラブに於いても、大学の教員と積極的に交流を行ってもらうことが出来た。</p>	<p>・部活動等の業務がある中、どこまで放課後の個別指導に学校全体として取り組めるかが課題である。引き続き進路指導部が関わり、仕組みづくり、教員の雰囲気づくりに取り組んでいきたい。</p> <p>・探究的な学びや主体的な学習を効果的に実現するための授業設計について、教員間で理解や実践に差が見られる点である。新教育課程の理念を具体的な授業に反映させるため、校内研修や授業研究のさらなる充実が必要である。評価の在り方に関しては、とりわけ「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、客観性や妥当性の確保が引き続き検討課題となっており、評価基準の明確化と教員間の共通理解を深めるための継続的な協議が求められる。</p> <p>・生徒会スタッフが役員同様精神的に動いており、公的な位置づけについて検討する。市高祭で使用する体育館の環境整備を検討する。</p> <p>・昨年度に比べると、ゴミの分別に対する意識は高まったが、まだ十分に徹底できていないため、今後も継続して取り組んでいく必要があると考える。</p> <p>・中学生への声かけと取られるような行為の定義が難しく、一般的な話をしただけで、中学からのクレームを心配しなくてはいけない。今後クラブ化が進むにつれ、広報活動も考えて行わなくてはならない。</p> <p>・大学訪問にかかる旅費の確保が必要。一昨年まで確保されていたが、無くなってしまった。再獲得をお願いしたい。近場の大学だけでなく、関東圏にも進路関係の出張が出来るようになれば、クラブ顧問が自己負担で出向している分の自己負担が無くなる。</p>	

		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
<b>研究テーマ</b> <b>伝統を大切にするとともに、新しい市尼を想像する学校づくり</b> <b>(1) 研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開</b> <b>(2) 研究テーマの具現化と指導の充実</b>		<b>3.1</b>	<b>3.2</b>
取組	成果	課題と改善策	
<p>・国際総合類型における特色ある教育活動の計画と理系クラスの探究活動における企業・大学との連携の拡充(教務部)</p> <p>・高大連携事業として、大阪体育大学より講師を招き特別講義を行う。(体育科)</p> <p>・大阪府立桜宮高等学校等の交流。(クラブの交流戦や卒論発表会の共同実施など)(体育科)</p>	<p>・国際総合類型では、語学力の向上に加え、多文化理解や国際的課題への関心を高めることを目的に特色ある教育活動を展開してきた。英語によるディスカッションやプレゼンテーション、国際問題を題材とした探究学習を通して、生徒は自らの意見を発信する力を身に付けつつある。また、Global Studies ProgramやPathfinder Programを活用した留学生や外部講師による講演により、異なる価値観に触れる機会が広がり、国際的視野の醸成という点で一定の成果が見られている。一方、理系クラスの探究活動では、同志社大学や徳島大学、岩谷産業株式会社との連携を進め、研究室見学や特別講義、企業見学等を実施してきた。実社会や最先端研究に基づく課題に取り組むことで、生徒の探究活動はより実践的・専門的なものとなり、科学的思考力や課題解決能力の向上、さらには将来の進路を具体的に考える契機となっている。</p> <p>・大体大より、本年も5名の先生に講師として授業を行って頂いた。普段の授業よりも専門的な講義を受けることが出来、良い刺激となった。</p> <p>・今年は本校に桜宮高校に出向き、卒業論文発表会を行った。各クラブ間の交流に関しては、ある程度は行うことが出来た。</p>	<p>・国際総合類型では、活動内容が多岐にわたるため、学習成果の評価方法や、三年間を見通した体系的な教育活動としての整理が課題となっている。また、語学力や学習意欲の差に応じた指導の工夫も、今後一層求められる。理系クラスの探究活動においては、外部機関との連携に関する調整や継続的な協力体制の構築に教員の負担が集中しやすい点が課題である。あわせて、全ての生徒が連携の成果を十分に生かせるよう、探究テーマの設定や指導体制の工夫が必要である。今後は、国際総合類型と理系クラスそれぞれの特色を明確にし、教育活動の計画性と継続性を高めていくことが重要である。企業・大学との連携を学校全体で支える体制を整えるとともに、生徒の成長を的確に捉える評価方法を工夫し、質の高い特色ある教育の実現を目指していきたい。</p> <p>・大阪体育大学にこだわらず、他の大学からも講師の招聘を行える出来るようになれば良いと思った。また、出来ることなら卒業論文発表会に、大学から先生を呼んで、講評などをして頂けないかと思った。</p> <p>・クラブでの交流は、お互いに無いクラブが有り、交流活動を行えない現状がある。また、陸上や水泳などは、対抗戦の得点化が困難で、お互いの高校で顧問の負担が大きい。更に日程的にも合わない場合が有り、今後継続して行っていくならば、平日に交流日を設定するなどの対策が必要である。発展的解消も視野に、管理職で相談して欲しい。</p>	